

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(3)―文字研究術語集の構築―(jrp000283)」2024 年度第 3 回研究会

日時：令和 7 年 2 月 16 日（日曜日）午前 10 時 00 分より午後 15 時 00 分

場所：オンライン

報告者名（所属）

1) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

紋章文字，熟語文字

まず古代中国で使われた「族徽」について述べた。族徽は出自集団を表す記号的文字であり、表現が原始的（絵文字に近い）であることが特徴である。また、族徽は称号を表す文字と合わせた合文表現が可能である。そのうえで、族徽のような出自を表す文字を「紋章文字」と定義づけられるかどうか、また表語文字の合文を「熟語文字」として定義づけられるかについて述べた。合文についての「表音文字・表語文字ではなく表音機能・表語機能で分けて考えるべき」などの意見をいただいた。

2) 岡野賢二（AA 研共同研究員，東京外国語大学）

TUFS 文字モジュール作成について

Web サイト上で外国語自習ができる e ラーニング教材である東京外国語大学言語モジュールの一つとして「文字モジュール」を開発、実装するプロジェクトが 2024 年に始まった。報告者はそのプロジェクト担当として、プロジェクトの経緯を説明し、文字モジュールで使用する文字の書き順をアニメーション化（動画化）するため、Microsoft PowerPoint を使う方法を紹介し、アニメーション化に必要な具体的な手順を実演を交えて解説した。

3) 全員

文字研究の術語に関する討議

「垂直二等分線」＝「(1 字中の) 重複要素を分割する縦線」の特殊な機能・形状について、荒川が西夏文字の事例を提示し、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。